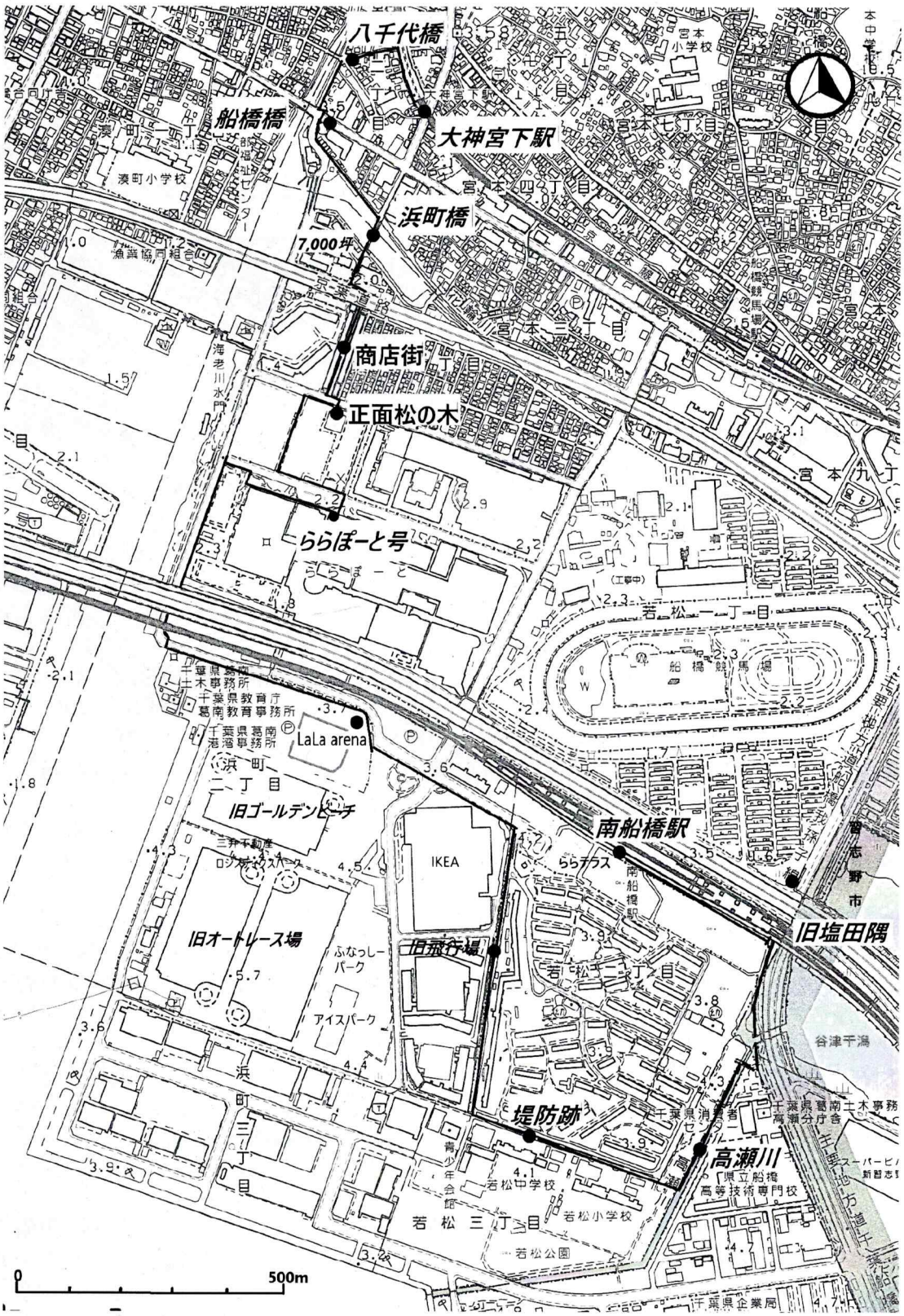
海神公民館講座　知るは楽しい船橋の歴史

船橋海岸線の変遷　ー塩田と埋立を探るー

○講座：11月５日(火)　○フィールドワーク：11月26日（火）　約4.5km・約２時間30分

船橋地名研究会　山本　稔

【フィールドワークマップ】



大神宮下駅近くの浜町橋と花輪インターを結ぶ線から南は、遠浅海岸を埋め立てて出来た戦後の造成地です。

船橋市は戦前から臨海工業地帯の造成による経済発展を考えていました。都市基盤を整備するのには、海へのびていくしかなかったし、全国どこでも大都市周辺の地域は同じ課題を抱えて歩んできました。当初は昭和放水路河口を中心とした港湾建設を考えましたが、戦後は海老川河口を中心とした京葉工業地帯の一部をなす葛南港を構築するものになりました。

昭和30年（1955）の船橋総合開発計画ではこの地区は、ヘルスセンターを中心とした臨海レクリエーション地帯として考えられたことがありましたが、その後の経済の変化によって、三期に分かれて造成されています。

船橋市が政治経済的な課題をいろいろ含んでいたこともありますが、それと引き替えにだれでも遊べるきれいな海と豊かな漁場を失いました。船橋御菜浦としての伝統ある海面漁業が縮小されたのですから、大きな犠牲を払ったともいえます。

古い海岸線はそのたびに地中に埋もれ、忘れられてきました。しかし、それぞれの埋立期の痕跡をあちこちに見ることが出来ます。それをたどって見たいと考えたのは、そのような歴史、私たちが廻してきた歴史の輪を振り返って見たいと思ったからです。

宮下駅Ⓢ

船橋大神宮の門前駅として開業した大神宮下駅は、海に近いこともあって宮下海水浴場の玄関口でもありました。駅周辺には遊園地も、旅館もあったのです。

駅前の道は大神宮の参道ですが、そこを南へ100mほどで国道14号にでます。右折して船橋橋（ふなばしはし）に行きます。

隣の**船橋競馬場駅** は、昭和２年（1927）８月21日に開業した京成電気軌道（現京成電鉄）の船橋市内六番目の駅です。開業時は、「花輪駅」といいました。駅名は近くの小字「花輪」からきています。同時に、ここから谷津遊園入口まで「谷津支線」を開業させましたが、昭和９年（1934）に廃止しています。

昭和25年（1950）７月５日、南の埋立地（五日市塩田）に船橋競馬場が開設されると「船橋競馬場」駅と改名、更に「船橋ヘルスセンター」が出来てからは昭和38年（1963）12月１日「センター競馬場」駅となり、昭和52年（1977）に「船橋ヘルスセンター」が閉じられると、昭和62年（1987）４月１日から「船橋競馬場」駅となり現在に至っています。地域の変貌を反映していることがわかります。

駅の西側に踏切があります。ここから北を見ると道が小さな坂になっています。この坂が**中世の海岸線**と推定されています。

八千代橋・大正天皇銀婚記念碑

大正14年（1925）大正天皇の銀婚を記念して架けられたこの橋は宮本と湊町をつなぐ橋です。橋の中央に立って両岸を見ると、喧騒のなかで五大力船が出入りし荷馬車が行き交った川端と、たくさんの漁船が海の幸を水揚げする舟町の活気あふれていた様子がみえてきます。

西岸は現在の船町会館から船橋橋にかけて漁師が軒を並べていたものです。漁師の家は川辺に向かって造られ、家のすぐ前は海老川でした。八千代橋のたもとには船大工さんの家がありました。それに対して東岸は海老川橋のたもとの彦右衛門稲荷から八千代橋にかけて材木店、燃料店、肥料店、運輸会社などが並び、家の前は広い通りがあり、荷揚げ場がありました。

今でもその名残は舟町側の家々の間口の狭さや、家の前の水道にみられます。川端側は家の前の広い道路と間口の広い家並みです。今ある運送店もまたその名残とみることができます。

どうして東側は運送業者や燃料店の河岸となり、一軒も漁師の家がないのか、また反対に西側が漁師の家が立ち並んで、運送業者や船宿などの店がないのかはとても不思議です

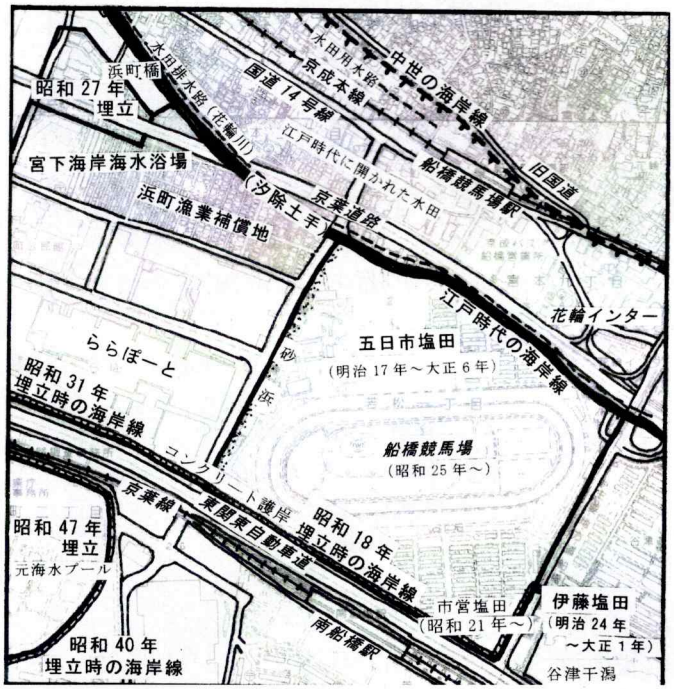
が、これは徳川家康の関東入国以来の歴史が秘められているのです。歴史が景観をつくる身近な例といえます。

船橋橋（ふなばしはし）

この橋は昭和18年（1943）に開通した国道14号（当時は７号）が海老川を渡る橋として架橋されました。国道は本町通りのバイパスとして建設されたものです。ですから、当時は「新国道」といい、海神陸橋から花輪の大踏切までコンクリート製でした。戦車が通るからといわれました。

昭和２年（1927）の松井天山の「船橋町鳥瞰図」にはこの橋は見えませんが、橋の東側は材木置場が描かれています。この辺りは「ゴミ河岸」といわれたところです。江戸末期から明治にかけて、江戸のゴミが舟で運ばれて、この河岸に上げられ、周辺農村の肥料に買われていったのです。

西側のたもとも海辺に近く砂浜がつづいていたようです。



昭和61年（1986）に高欄が架け替えられ、橋の四隅にはカッパの親子の彫像が置かれています。欄干の間には豊漁にわく船橋を象徴するレリーフがはめこまれ、海へのロマンをかきたててくれます。船橋橋とカッパの伝説とはあまり関係ありませんが、絶え間ない騒音のなかで剽軽な姿が何かほっとさせるようです。船橋橋から西岸の道を行って八千代橋へ行きます。

京葉道路

駅前から国道を越えて「ららぽーと」へ向かう広い道路を南下すると、すぐ京葉道路の下をくぐります。この道路の南側の小道辺りが、**江戸時代の海岸線**です。習志野市境から海老川まで「汐除堤」と呼ばれる土手が築かれていました。この北側は「浜田」「清水下」などと呼ばれると呼ばれる遠浅海岸です。三番瀬と並んで優れた漁場でした。

江戸時代からの水田地帯でした。南が「高瀬」

浜町と「ららぽーと」

競馬場の西側は「ハコミオ」と呼ばれ、遠浅海岸が残っていました。海老川河口付近は、宮下海水浴場として賑わっていたところです。

昭和27年（1952）に一部埋立てが行われましたが、本格的に現在の土地が造成されたのは昭和30年（1955）７月で、約36･３万平方メートルの土地が造成されました。昭和43年（1968）に住居表示により「浜町」となりました。昭和30年に船橋ヘルスセンターが出来て、総合レジャーランドとして全国に有名になりましたが、昭和52年（1977）に閉鎖、

10年後に「ららぽーと」と山一証券総合研修所（現在は、ｖｉｖｉｔと高層住宅）になります。

東関東自動車道

船橋競馬場の南端に行くと東関東自動車道（昭和57年＝1982、市川・宮野木間開通）と湾岸道路（国道357号）、ＪＲ京葉線が併走しています。この辺りは昭和31年（1956）に造成された埋立地の南端（**船橋の最南端の海岸線**）です。競馬場の南縁は万年塀が続いていますがその外側に溝があります。この溝がかつての海岸線であり、土地の高さを示して

います。

この南側の干潟は、昭和39年（1964）に埋め立ての対象となり、翌年４月には57万平方メートルの広さの土地が誕生しました。この土地は「若松町」と命名されました。現在では西側が浜町三丁目となっています。向の大型家具店と若松団地の間に南へ行く道があります。東半分には日本住宅公団の若松団地（若松二丁目）が造成され、西側はヘルスセンターの飛行場（現大型家具店と中高層住宅）が出来、オートレース場が移転してきました。

若松団地

ヘルスセンターの遊休地を日本住宅公団が引き受け、昭和44年（1969）に入居が開始された市内で五番目の住宅団地です。賃貸と分譲の二つがあり、駅から離れていることで、商店街なども計画的に設置されたものです。西側の一棟は長さ400mもある長大なもので、棟の西側は二重窓にもなっていてます。隣のオートレース場の騒音対策です。

若松小・中学校

道を南に行って突き当たるところに、西から、青少年会館・若松中学校・若松小学校と並んでいます。小学校は昭和44年（1969）に南船橋駅付近に建設されましたが、京葉線建設に伴い、昭和53年（1978）に現在地に移転したのでした。旧地が京葉線と第二湾岸道路の建設地に想定されたことによります。

若松中学校の校門前に、コンクリートの土手状のものが見えます。**昭和40年（1965）の海岸線**です。

ここから南側は昭和50年（1975）に造成された埋立地で、「高瀬町」「浜町三丁目」「若松町三丁目」が設定されています。

高瀬川

右側に見える水路は高瀬川といいますが、埋め立てによってできた水路です。上流では谷津干潟と通じています。谷津干潟の東にも同じような水路があり、こちらは二号水路という名前です。つまり谷津干潟に海水が出入りする水路です。潮の満ち引きによって流れが変わります。

船橋競馬場

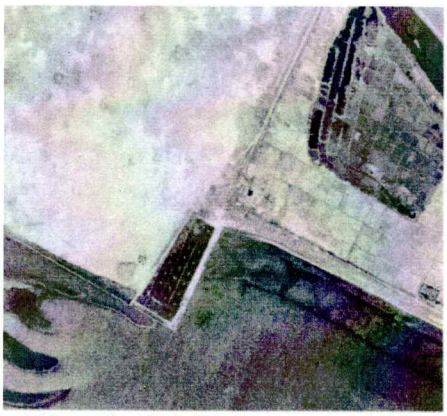
湾岸道路歩道橋から船橋競馬場が見えます。船橋競馬場は昭和25年（1950）に開場した公営競馬場です。当初はオートレース場（本邦初）を併設していました。昭和44年（1969）に住居表示で「若松」となっています。

五日市塩田

船橋競馬場の敷地は、明治17年（1884）に開場した「五日市塩田」で、「小松屋塩田」ともいいました。大正６年（1917）の台風による高潮で壊滅し、長い間海中に没していました。

昭和12年（1937）からの昭和放水路建設の関連事業で埋め立てられましたが、昭和18年（1943）の事業中止により放置され、一面の草地になっていたところです。その後、飛行場が出来るとの噂もありました。

昭和20年（1945）東南の角には小さな市営塩田がつくられ、、その東側（習志野市側）には釜場もありました。隣の「谷津干潟」もかつては塩田で、「伊藤塩田」と呼ばれていました。市営塩田の角は昭和18年（1943）から35年（1960）までの船橋の最南端でした。



昭和22年航空写真

左の白い部分が旧五日市塩田、後の船橋競馬場。右下に戦後の市営塩田の跡。右の黒い台形部分が昭和放水路工事範囲で、筋状の部分が掘削した痕跡。

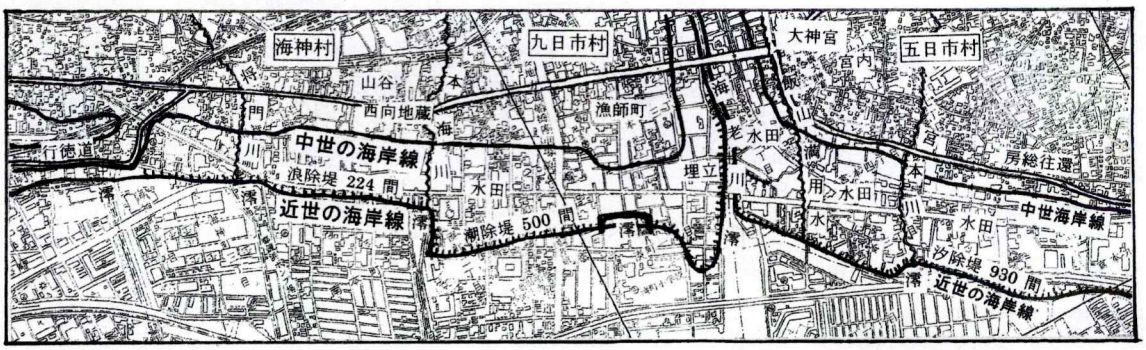
南船橋駅Ⓖ

若松団地の中を通り過ぎると京葉線との間に広い空閑地がありました。ここは当初第二湾岸道路の建設予定地として確保され、平成６年には道路候補として指定されましたが、三番瀬の埋め立て中止で凍結状態になっていました。今は、「ららテラス」という商業地とマンションが建ち並ぶ地に変貌しつつあります。

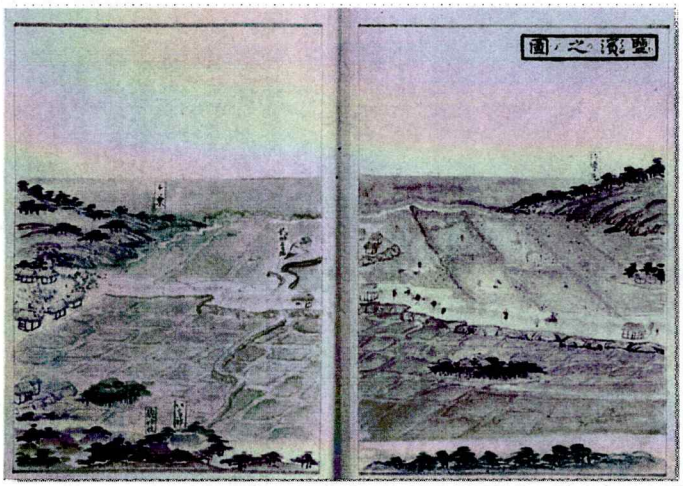
南船橋駅は、昭和61年（1986）３月３日に国鉄京葉線開通とともに旅客線として開業しました。武蔵野線西船橋駅への連絡線である京葉線二俣支線の分岐駅であり、同線を通って武蔵野線の列車の一部が当駅まで乗り入れています。若松団地の中央部に位置するようになっています。駅前から降下線沿いに西へゆくと「**ららぽーと**」へ出られます。

〈資料図・写真〉

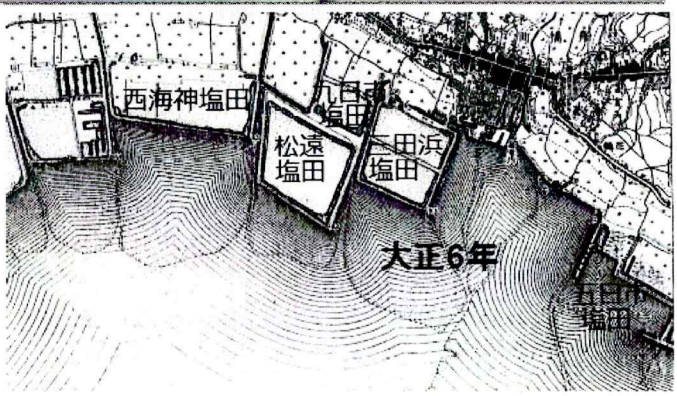
■近世と中世の海岸線



■船橋にあった塩田



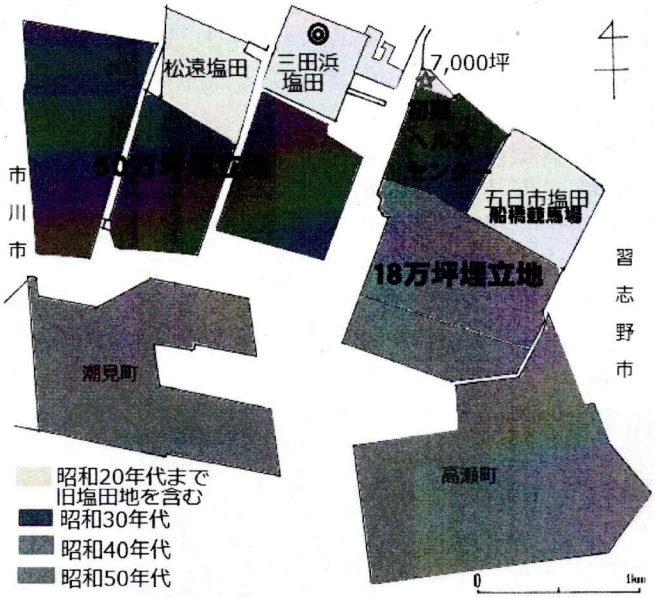
「**監浜之図**」（しおはまのず）
『鹿島参詣記』文政7年（1824）
※中央を通る道は行徳街道。右海岸部にせり出したところには「行徳」同左は「千葉」とある。
街道の海側には塩田、手前には水田が広がる。
左下には「いも神」「龍神社」とある。西海神村の龍神社（現存）を示している。



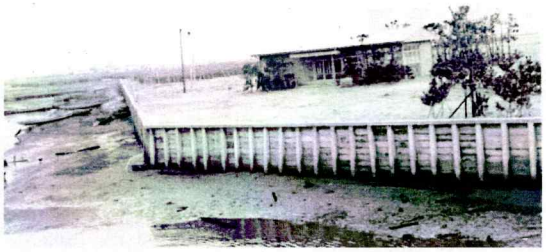
大正６年（1917）船橋海岸にあった塩田
※大正６年の高潮でかなり被害を受けた
西海神塩田　江戸時代より
九日市塩田　明治初期
三田浜塩田　明治14年
五日市塩田　明治17年
松遠塩田　　明治34（37）年

■船橋海岸部の観光リゾート地化の萌芽…「干潟一里は街の庭　花の東京は町続き」
海水浴場、三田浜楽園

■海岸部の埋立



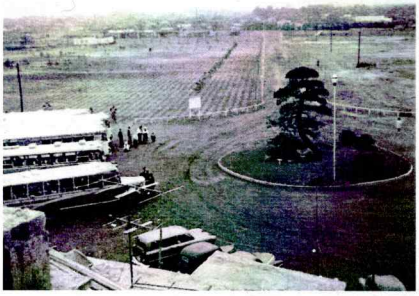
埋立工事風景　遠浅海岸部の砂をポンプで送る



朝日土地興業船橋事務所
初期埋立7,000坪、左地図の★部分にあった

■船橋ヘルスセンターの栄枯盛衰

昭和33年パンフレット



正面バスロータリーと松の木
直線道路の突き当たりに浜町橋、遠くに宮本の林

○**初象**　誕生は天然ガスと温泉から。健康増進施設：英語 helth center は「保健所」の意味。
○**顕象**　施設増加　ローマ風呂、コマ館、大滝滑り、ハイランドスキー場、ゴールデンビーチ、水上スキー、船橋サーキット、セスナ遊覧飛行場、ゴルフ場、ローラースケート場、アイススケート場、ボーリング場、大劇場、おとずれた有名人 etc。
○**残象**　閉園からららぽーとへ　東京湾沿岸のリゾート地の今につながる。

←昭和44年ヘルスセンター空撮

昭和33年　船橋飛行場開場 後北側に移転
昭和40年　ゴールデンビーチ開園
〃　船橋サーキット場開場
昭和42年　同閉鎖
昭和43年　オートレース場が競馬場から移転開場
昭和44年　船橋飛行場閉鎖
※飛行場跡地はゴルフ場、ザウスとなり、現在は IKEA とマンションとなる。
※サーキットの一部は道路として残っている。
※ゴールデンビーチの波打ち際の曲線部分は LaLa areana と物流センターの駐車場部分に残っている。

〈参考〉・滝口昭二『船橋の地名を歩く』（崙書房2014）・郷土資料館『船橋のあゆみ』（2008）・船橋市教育委員会『船橋市の歴史ー近・現代編ー』・小川国彦『利権の海』（社会新報1970）　他